

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい ぎろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第14回会議録(要約)

にちじ ねん がつ か ど
日時: 2017年7月8日(土)14:00~16:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい ぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いいん いしま い の みさと くする み こ しらとりせつろう しようじ た
出席: 委員(石間フロルデリサ、猪野美里、楠瑠美子、白鳥節郎、東海林まりえ、田
の いさい な ふかわたかつね やまと し こくさい だんじよきようどうさんかくか い
野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同参画課(伊
とう こうえきざいだんほうじんやまと し こくさい かきょうかい さかい たなか こにし いしかわ いじよう
藤) / 公益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上
13名

けっせき いいん いとうもとみ せやまり けいしりやく
欠席: 委員(伊藤素美、ウプレティ マトリカ、瀬谷麻里)(敬称略)

かいぎ ないよう
1 これまでの会議内容

せんじつ がいこくじん し みん かいさい にほん せいかつ じぶん う い
先日、外国人市民サミットを開催し、「日本で生活して、自分が受け入れられていな
いと感じた経験」について 20名あまりの外国人参加者に自分の経験をグループに分か
れて話していただいた。このサミットについて、参加した委員から感想を述べてもらった後、
じ む きょく ぜんかいかい ぎ ないよう ふ かえ
事務局から前回会議の内容を振り返った。

○この多文化共生会議で話していることと、サミットで話していたことはあまり変わらない
とおもった。サミットでは言葉の壁や教育の問題があったり、日本では外国人として生き
づらさを抱えている、といった意見があった。この会議で話していることは一部の外国
じんとうくゆう か だい おお がいこくじん きょうつう か だい あらた かん
人特有の課題ではなく、多くの外国人に共通する課題であることが改めて感じられ
た。

○外国人にとって、自分が日本で受け入れられていないと感じることの多くは、日本語
りょく ふ そく げんいん
力の不足が原因ではないか、という意見が多かった。

○来日して間もない時期に工場で働いていたところ、仕事で分からないことがあって上
し にほんじん おこ けいけん はな とし にほんご わ
司の日本人にすごく怒られた経験をサミットでは話した。その時は日本語が分からなく
て、日本人が怖くなってしまっと思わず涙が出た。外国人は日本語が完璧ではない
ので、会社側はもう少しその点を考えていただけないだろうかとおも

か こ ていげん じ む きょく ほうこく
(過去の提言について事務局からの報告)

○前回会議では、やはり行政に対して提言を出すべきではないかとの意見が再び上が
った。第4期会議で提言することはしないが、過去第1~3期の多文化共生会議の提
げん たい しんちよくじようきよう し こくさい だんじよきようどうさんかくか かくにん し だい かい ぎ
言に対する進捗状況を市の国際・男女共同参画課で確認し、まとまり次第この会議
ほうこく
で報告する。

2 委員からの報告

●猪野委員からの報告

- 受け取るシステムが分かっていないと情報を受け取ることができない。どうしたら情報を手に入れることができるのかが分かるとよい。日本人でさえ、税金をどうやって払っていか分からないときがあるので、外国人であればなおさらではないか。
- 日本人でも外国人でも、誰にとっても絶対に必要な情報があるので強制的に受け取らせなければならない。所属先がある人にはそこに情報を送るなど、情報を発信する側としてやるべきことがある。
- アンさんが生活できないと周りの人が困ってしまう。外国人は誰に相談できるのか分からないので、マンツーマンで受け入れられるような体制(外国人サポーター)をつくれればよいのではと思う。
- 日本人の中にも外国人との橋渡し役をしたいと思っている人がいるけれど、きっかけがない。どこに行けば外国人とつながることができるのか分からない。一般の主婦が外国人とお友だちになりたいと思っても、なかなかそうした場はない。でも、何かお役に立ちたいとは思っている。

●府川委員からの報告

- アンさん自身が情報を取りにいかない。間違った情報を受け取ってもそのままにしてしまう。その結果、周りの人が困っていたとしてもそこまで気にしない。
- 行政や周りの人がアンさんの困っていることを理解できていない。また、アンさん自身も行政のことなどを理解していない。
- わたしたちができることは、学校から子どもたちを経由して外国人向けの情報を配布すること、情報を整理した上で情報発信・情報交換のスペースを確保すること、また、外国人用のホームページを開設することなどが考えられるのではないだろうか。
- アンさんが日本人だとしたら全く問題ない。問題は、アンさんが外国人だと認識された瞬間、日本人との間にもものすごい壁ができてしまうこと。コミュニケーションや言葉などの問題があるかもしれないが、情報を届けることでその壁を低くできるのではないか。

●パトリア委員からの報告

- アンさんは日本語学習には興味がなく、問題があっても通訳員に解決してもらっている。アンさん以上に子どもたちが日本語を話せるので、これ以上日本語を身につける必要がないと思っている。

- 日本語で書いてあるものは、内容がわからないのでアンさんのような外国人は捨ててしまう。だから情報が届かない。
- わたしたちにできるのは、講演会を開催して、外国人の言語に合わせて日本のことなどを説明する機会をつくることではないか。
- 日本人との交友関係があれば幸福感を得ることができる。ペルーなどの外国人ワールドで過ごすだけでなく、もっと日本人と交友関係を持てるといい。

●楠委員からの報告

- アンさんは自分で情報を得ようとはしていない。日本で暮らしていても、自分の国で生活しているような感じで過ごしている。今日一日生活ができればよいと思っていて、アンさんの身の回りはたくさんの情報があるが、興味がない。手紙はたくさん届けけれども、分からないと捨ててしまう。日本は学校にしてもプリントが多く、情報が多過ぎる。
- 生活に役立つ情報がたくさんあることをアンさんに伝える必要がある。たくさんの方に一度に届けようとしてもたいへんなので、アンさん個人に情報を届けようとするのが大切なのだと思う。
- わたしたちにできることは、アンさんを積極的にサポートすることだと思う。アンさんとのかけはしになる人が必要になる。

3 意見交換

外国人への情報提供を取り巻く課題については、委員のみなさんがそれぞれ調査した上でこの会議で報告をしていただき、出てきた課題を事務局からひと通り振り返った。

男性や高齢者に関する課題が抜け落ちている

- 課題はひと通り出たが、外国人の女性と男性とで同じ問題を抱えているのだろうか。今までの事例は家庭や女性の課題に偏っている気がする。女性はママ友つながりで情報を得ることがあるかもしれないが、男性はどうやって情報を得ているのか、その点がつつぱり抜けているのではないか。日本人でも、男性はあまり家庭のことを話したりはしないし、保育園や幼稚園でママたちが話していることが家庭の問題を解決したりしているのではないだろうか。それは外国人でも同じと思う。それに加えて情報を提供するにしても、母親だけでなく、父親にも知っておいてくれないと困ることもある。
- この会議で話していることは、ほとんどは子育て世代の外国人という前提で議論してきたところがある。若いときに日本に来て、稼いでから本国に帰るというパターンは減り、

ていじゆう か
定住化しているため、これから外国人の高齢者が増え、外国人の介護に関する課題
がでてくるのではないか。

外国人と日本人の壁

- 外国人だけに壁があるのではなく、日本人にも壁がある。外国人に情報を届けたいのであれば、地域の自治会がいいのではないか。しかし、自治会は何も動かない。例えば、お祭りをやるにしても、日本人のためだけにお祭りをする考えが強いので、外国人はウェルカムではない。昔からそうで、わたし自身何度も組長などを務めているが、いまだにウェルカムではない。でも、子どもため、家族のためと思って参加している。もちろん、外国人も努力しないとイケないが、努力だけではどうしようもないこともある。
- 最近の話だが、ラオス人が市立病院に行き、話す言葉がタイ語だとわかると、病院のスタッフは「ごめんなさい、ここにはタイ語の通訳はいません」と言って、別のクリニックを紹介した。そこまでのやり取りはその患者とすべて日本語でやっているにもかかわらず、受け入れてくれなかった。別のクリニックではすべて日本語でやりとりを行い問題なかったわけだが、どうしてこの壁がなくなるのだろうか。
- おそらく日本人は最初から外国人は日本語ができないと思っている。その壁を取り除くのはむずかしい。日本人は丁寧でむずかしい日本語を使おうとするので、外国人には伝わらないと思っている。簡単な単語(やさしい日本語)で話せば伝わるのに、日本人はその外国人とそれ以上コミュニケーションを取ろうとしない。
- 医師は正確な診断情報を伝えなければいけないという責任感が強いはずなので、あいまいな伝え方を避けるため、日本語でのコミュニケーションを避けるのではないか。
- しかし、診察する前の受付で拒否される。市立病院ではなく、別の歯医者に行ったとき、外国人であることだけを理由に門前払いされたことがあった。
- 市立病院で外国人であることを理由に診察を拒否されるのは、医療費を支払ってくれないからなのかもしれない。
- わたしが経験したのは、医療費が公費で支払われるケースだったので、やはり外国人であることを理由に診察を断られたのだろうと思う。

誰が課題を解決するのか

(ここで「外国人への情報提供」の前に会議で取り上げた「外国人の子どもを取り巻く課題」について、事務局からこれまで検討してきた内容を振り返った。)

- 課題は出尽くしている。そうした課題をどうやって解決するか。おそらく日本の制度を

か こんぽんてき かいけつ たと がっこう せんせい いそが す か だい
変えないと根本的には解決できない。例えば、学校の先生が忙し過ぎるという課題が
で 出ている。無償のボランティアではなく、子どもたちをサポートする制度をきちんと整え
れば、外国人の子どもを取り巻く課題も解決できると思う。そのような提言をして、神奈
川県として、大和市としてどうするか打ち出すことができれば、課題の解決につながる
のではないか。

- ボランティアや自治会の話が出ているが、課題を解決するのは無償のボランティアな
のか、そうではないのかという点に関してどう考えるか。
- 子どものサポートにしても、すべてをボランティアに頼るのは良くない。
- ボランティアに頼らないとしつつ、最終的には情報が届けばよいので、誰が情報を届
けてもいいはず。ボランティアでない方が確実に情報が届くかもしれないし、自治会な
どボランティアの人が多く情報を手渡そうとすることで情報が届くかもしれない。
- 外国人の主婦とか働いていない人の中には何かボランティアをしたいと思っている人
もいる。以前、顧問がいなかったために中学校の部活がなくなってしまった話を聞いたこ
とがある。外国人が自分の特技を生かしたボランティア活動を子どもたちに行うことも
できるのではないか。
- 部活は規則が厳しいので、サークル的なものなら可能ではないか。絵を書くとか、レク
リエーションみたいな寺子屋とか楽しくやりたいということだったらできるかもしれない。

壁をこわすには

- 外国人の母親など有志のボランティアがいるとして、外国人の子どものことや情報提
供のことで何か解決できるしくみがあるといい。
- 小中学校の国際教室では年に1回お楽しみ会があって、そのときは保護者も来るの
でそういう場を利用して情報提供ができるのではないか。自分たちのエスニック料理
を持って行って食べたりもする。
- 自治会、日本語教室などすでにあるものを利用して情報提供ができるといいのではな
いか。自治会は各エリアにあるので、その地域に住む外国人が講師になって料理教
室を開いたりできると思う。そこに私たち委員が出向いて、間に入ってきっかけをつ
ついでいかないといけない。
- やはりコミュニケーションが必要。何かやりたいと言ってもコミュニケーションがなければ
実現できない。いきなりでは、「あなた、誰」みたいになっちゃう。
- コーディネーターが必要で、私たちのように多少なりとも多文化を理解しているような
人が間に入っていかないといけない。

- 大和市では地域のコミュニケーション、近所付き合いの機会として「茶OH」と言うお茶会を地域の個人宅で開いている。外国人版の「茶OH」をやってみてはどうか。
- まずは、この会議のグループでお茶会をやってみてはどうか。
- 外国人は行きづらいのだろうか。やはり、誰か知っている人と一緒にないと入りづらい。
- 外国人だからというわけではなく、おそらく日本人であっても、いきなり他人の家には入りづらいのではないか。
- まさにそのように地域の人たちが集まれる場所として市内にコミュニティセンターがある。例えば、自治会でもコミュニティセンターを利用できるはずなので、外国人を含めた催しなどができると良い。
- 自治会の組織は大きくて、役員は70代から上の方々ばかり。そこに切り込むのはちょっとむずかしい。すべての自治会に対して外国人とともに活動するように呼びかけてもらえばよいのだが。意見を言っても新参者が何だと思われたりして、日本人も壁がある。
- 各自治会に外国人を受け入れる班をつくるように呼びかければ良いのでは。
- 自治会でもそうだが、1年先の予算まで決まってしまうている。何かしようとしても、いやもう決まっていることだから、と言われると何もできない。
- お願いするよりも、一度やってみせていいね、と思ってもらった方がいいかもしれない。自治会の方々と防災訓練を何回かやってみると、外国人のことも考えた方がいいね、と思ってくれる。何度か続けると、いいねと実感を持ってきて積極的にしてくれることがわかる。
- 自治会ではなくて、子ども会の方がまだ平均年齢が若いこともあって柔軟なのではないか。わたしも昨年班長を務めたが、若い人の意見は最初から聞く耳を持っていない。日本人でさえそうなのだから外国人ならなおさらだろう。外国人は自治会に入る上でメリットが分からないので、入ってくれないのではないだろうか。

外国人ワールドへの働きかけ

- 例えば、フィリピンワールドの中に日本人は入れないのだろうか。
- フィリピンの女性を配偶者に持つ日本人の男性に聞いたことがあるが、タガログ語でのコミュニケーションなので、やはり壁を感じるようだ。
- フィリピンの女性がタガログ語で話せて自分らしくいられる場は必要なはずで、やはりそのフィリピンワールドとは別の場に連れて来るといふ発想がいいのではないか。
- どうしたら来てくれるのかと言えば、個人的に声をかけるしかない。一人ひとりに対して、

楽しい場所たの ばしょ ほかは他にもあるし、日本語にほんごも身につくかもしれないことを伝えるつた。みんなみんなに情報じょうほうを流ながしても届とどかない。自分の居場所じぶん いばしょだと実感じっかんできれば、その場ばが心地こころいいと感じかんず。その人ひとから友人ゆうじんにも波及はきゆうしていくといい。

○例えば、外国料理教室がいこくりょうり きょうしつに来てくれた日本人にほんじんと、その後連絡ごれんらくをとりあう関係かんけいになるのだろうか。長くながつづいていくコミュニケーションコミュニケーションにはならない気がきするが、1回限りの文化体ぶんかたい験けんを通じて、長くながつづいていく関係かんけいにつなげていくにはどうしたらよいか。

○わたしの場合ばあい、ずっとつづと続くコミュニケーションコミュニケーションはないけれど、ときどき顔かおを合あわせて話はなしをするくらいくらいの関係かんけいならある。

○言葉の壁ことば かべがあったり、年ねんに数回すうかいしかないと、機会きかいが限かぎられていたりする。2 か月げつに1回かいなどの頻度ひんどうで何回なんかいか会う機会きかいをつくれれば、知り合しあいになっていくのではないかと。

○一度いちどこのメンバーメンバーで会議かいぎではなく、お茶会ちやかいをしてみてもどうか。いろいろな意見いけんが聞きけるので自分たちじぶんにもメリットメリットがあるし、参加者さんかしゃに国際化協会こくさいかきょうかいなどいろいろなことことを知しってもらえる機会きかいにもなる。外国人がいこくじんは日本人にほんじんと話はなすのを怖こわがっているし、日本人にほんじんも「わたし英語えいごできないから」と言いって外国人がいこくじんと話はなすのを避さけている。

○ただ単たんに料理教室りょうり きょうしつをするのではなく、献立こんだてや食材しょくざいの準備じゆんびなどを一緒いっしょにやってみるなど、企画きかくの段階だんがいから共同きょうどうで行おこなった方がほうより良いよものになる。プロセスだいじが大事だいじ。

自治会の壁じちかい かべ

○なぜ自治会じちかいに入はいるといいのかと言うと、回覧板かいらんばんに外国人がいこくじんの名前なまえが掲載けいさいされるのでみんなみんなが外国がいこくじん人も近くちかに住すんでいることを実感じっかんできるから。入はいってもらうには何らかのメリットメリットがないと入はいてもらえないけれども、なかなか自治会じちかいに入はいるメリットメリットが見出しにくい。

○自治会じちかいの役員やくいんは外国人がいこくじんの居住実態きょじゅうじつたいを把握はあくしているのか、よく分わからない。

○自治会じちかいに入はいっている人は少すくないと思う。引越ひっこした後あとに自治会じちかいの勧誘かんゆうに来くるが、一度いちど断ことわれば、その後ごしつこく声こえをかけられたりはしない。自治会じちかいに入はいっているかどうかとは関係かんなく、近くちかに住すんでいる外国人がいこくじんと一緒にいっしょに自治会じちかいで何かなにができるといいのでは。

○先日の外国人せんじつ がいこくじん市民サミットしゅみんさみっとで上がった意見いけんだが、外国人がいこくじんの中なかにも自治会じちかいなどの日本にほん人じんコミュニティコミュニティに参加さんかしたいと思おもっている人がいる。われわれがそうしたニーズニーズを掘ほり起こおこすことができるのではないか。やはり今いまある枠組わくぐみを活用かつようできると良いよい。

○日本人にほんじんでも外国人がいこくじんでもそうだが、自治会じちかいは勧誘かんゆうして断ことわられたら、その世帯せたいとは関わりかかりを持もとうとはしない。何度もなんどしつこく勧誘かんゆうしたりはしない。

○壁かべを破やぶるためにできることを考かんがえるのであれば、あんまり広ひろく考かんがえると難むずかしい。自治会じちかいでなくとも、今いまある団体だんたいや組織そしきにわたしたちが働はたらきかけて何かなにができたらいさきい。先ほど

はなし で りょうり きょうしつ つき かい なに すこ ひろ
話が出たように、料理教室を月に1回やるなど、何かやってみて少しずつ広げていける
るといい。

○外国人はそれぞれ自分たちのワールドに生きているので、どうやって外の日本人との
つながりをつくることができるか。地道な作業かもしれないが、一人ずつ声をかけて外
のワールドとつながるきっかけをつくれるといい。そのためには、外のワールドが魅力的
でないといけない。

○魅力はいっぱいある。料理教室の講師を経験すれば、すぐ自信がつくし、日本人っ
て怖くないんだということにも気づく。わたしはいろんな面で日本人は怖いと思っている。
外国人は初めて会っても前から知り合いだったかのようにフレンドリーに話すことができ
るし、次の日に会ってもそれは同じ。でも、日本人は今日お友だちでも明日会ったらま
た別の顔をしている。

○自治会の人に日本語ボランティアをやってもらうのはどうか。

きっかけは何か

○アイデアや人材はすでにあり、やろうと思ったら大抵のことはできそうだが、なかなかき
っかけがない。誰でもかんたんに始められて、外国人も日本人も双方にとっていいこと
はどのようなことか。

○外国人は料理をつくって食べることは一番好きなことなのではないか。日本人でも誰
でもそうだが、そこでおしゃべりしながら、いろんな情報交換をすることが好きだ。

○外国人の料理教室は講師となる外国人が一人であることが多い。だから日本人同士
でべらべらしゃべってしまうが、この場所に外国人が日本人と同じくらいの人数がいた
ら会話が弾んでいいのではないかと。以前参加したベトナム料理教室にしても、ウズベ
キスタン料理教室にしても、参加者はその国に行ったことがある方が多い。しかし、そ
の国の話ができるのは講師役の外国人一人だけなので、料理教室をやるにしてもあ
る程度の外国人がいた方が参加者同士のコミュニケーションが活発になるのではない
か。

○以前講師としてペルー料理教室に参加したとき、同じグループにいる5人くらいの方が
スペイン語を話したので驚いたことがある。

○わたしが最初に地域で活動したのは、幼稚園のママ友たちと外国人の友人を呼んで、
コミュニティセンターでカレーライスをつくったこと。外国人は日本のカレーライスを知ら
ないので、日本人のママたちは全員が先生。40～50人くらい集まって、みんなでつく
って食べるまでがすごく楽しいと感じた。

ランチ会を開いてみる

- 外国人は日本に暮らしているにも関わらず、それぞれ自分たちのワールドの中だけで生きている。日本人とのつながりがあれば、わたしたちが取り上げてきた課題の解決につながるのだと考えることができる。外国人と日本人がつながるきっかけを、わたしたちでつくることはできないだろうか。料理教室や遠足など何らかの共同作業を通じて、継続的な関係をつくることを考えていきたい。
- 具体的に何がいいのか分からないので、次回の会議(9月9日)では試しに、みんなが外国人、日本人のお友だちを呼んで、ランチ会を開いてみるのはどうか。ランチ会の後、お友だちには帰っていただき、委員だけでどうやって声をかけたか、などの反省会を行う。
- 声をかけるお友だちは外国人、日本人問わず誰でもいいので、できれば家族以外のお友だちが好ましい。
- 今から誰に声をかければいいのか悩む…。どうしたら来てくれるのか、誰にどうやって声をかけたか、日本人との交流の場に外国人を呼ぶにはどうしたらよいか、などをランチ会の後で委員のみなさんで意見交換する。そのための試みとしてランチ会を開く。
- 今回のランチ会について、誰とどのようなコミュニケーションをとるかによって、情報提供や情報の伝わり方のヒントにもなるのではないかと。今回のランチ会への参加がむずかしいという返答があれば、もっとハードルを下げて考える必要がある。日本人を呼ぶには、口約束だけでなく、内容を書いた紙を渡さないと来てくれないかもしれない。外国人と日本人の壁を壊すためのきっかけはどのようなことなのか、ランチ会を開くことで学びになるのではないかと。

4 その他

次回は 9月9日(土)12:00～同じ市役所分庁舎2階会議室でランチ会を行い、その後、14:00～から会議を行う。

以上